

## 第4回 石川中央都市圏地域公共交通協議会

### 議事概要

#### 【概要】

日時：令和5年2月22日（水） 15時00分～

場所：金沢歌劇座 大集会室

#### 【次第】

1 開 会

2 議 事 等

石川中央都市圏地域公共交通計画（案）について

（資料）

3 閉 会

#### 【会議の様子】



## 【議 事 記 録】

### 1. 開 会

#### 挨拶（高山会長）

本日は珍しく天気がよい。2月も中頃になると三寒四温の天候になってきた。

本日は第4回目の協議会ということであるが、前回の協議会で審議いただいた計画案についてパブリックコメントを約1カ月実施し、色々な意見をお寄せいただいた。それらの意見を基にとりまとめた計画案について、皆様のそれぞれのお立場からご確認いただきたい。

### 2. 議事等

#### 石川中央都市圏地域公共交通計画（案）について

資料（説明：金沢市 近藤課長）

ほくてつニュース（説明：北陸鉄道㈱ 宮岸社長）

#### （会長）

利用者の立場としてご意見はないか。

パブリックコメントを1ヶ月実施し、1名の重複はあるものの、金沢市と白山市で27名の方からご意見をいただいた。

利用者の方や公共交通に熱い思いを持った方から意見がよせられているのではないかと感じている。

計画の概要は資料P13、14にまとめてあるが、計画案について簡潔にまとめすぎていてわからない、もっと具体化したほうが良いなどご意見をいただきたい。

#### （事務局）

石川中央都市圏の話ではないが、金沢市が実施した第3次金沢交通戦略（地域公共交通計画）の意見交換会についてご紹介させていただく。市民の方々から頂いた意見で多かったものとして、「行政や交通事業者に『公共交通は重要であり、公共交通に乗ってほしい』と言われても、便利じゃないし、乗る機会もない。」といったご意見がある。そのほか、高齢者の方からは、「朝や帰宅ラッシュの時間にはバスの便数は多いが、昼間は全く走っていない。そのような状況では出かけることができない。」「郊外部からまちなかへの運賃が高く、年金暮らしには厳しい。」といったご意見をいただいた。市民の皆様が自家用車を使わなくても暮らしていける環境を増やしていく姿勢が重要である。本日出席の方々もそのようなご意見をお持ちの方もいらっしゃると思うが、行政のみならず交通事業者、関係者と協力し解決していきたい。

#### （会長）

じっくり読むとかなり細かく様々なことが書かれている。「超高齢・人口減少社会に対応した広域的な公共交通網の構築」、「分かりやすく使いたくなる公共交通の利用環境の改善」、「公共交通利用促進に向けた住民等の意識醸成」の3つの基本方針の下にそれぞれ取組が書かれているが、これらについてもご意見があれば伺いたい。

#### （A委員）

パブリックコメントに対する4市2町の考え方について、「検討していく」といった記載が多い。資料P13の課題に対して、基本方針や主な取組で対応できるのか。明解な表現にできないものか。

### (事務局)

歯応えがないということについては反省する。公共交通を使っていただくために、公共交通が移動の選択肢に入るよう、利便性を向上させるような取組を、昭和の時代から行ってきた。しかし、公共交通と自家用車を比べると、自家用車の方が便利という人の方が多い。

各市町から金沢市中心部に移動する大量輸送については、公共交通を利用いただいているが、それ以外の方々への働き掛けも試行錯誤しながら行っている。

資料のP20以降に具体的な取組を記載している。新しい取組はないかもしれないが、例えば、P&Rについては、マイカー対公共交通という対立構造ではなく、マイカーと公共交通が連携していくための施策が必要だと考えている。また、スマートフォンなどを活用したデジタル乗車券などの取組も行っているが、使い勝手が悪い、高齢者の方が使えないなどといったご意見もいただいております、ご指摘を真摯に受け止め、毎年フォローアップをしていく予定であるため、しっかりと評価・検証していきたい。

### (会長)

東京や大阪に行ってマイカーを利用される方は少ないと思うが、それは費用や時間、利便性等の点で公共交通のほうが自家用車よりも優れているからである。地方都市において、同程度の公共交通サービスレベルを確保することは難しいが、大都市で実施されているソフト面での使い勝手の良さは、地方都市でも実施することはできる。広域的なMaaSについては使い勝手を良くし、お得感があれば少しずつ普及し、さらに民間が参画することで、利便性が改善するのではないかと思う。

### (事務局)

現状大きな結果は出ていないが、金沢市だけでなく、周辺市町や県、交通事業者、商店街などでまちを元気にするために、交通事業者間で協力し公共交通を便利にしていくことがMaaSの神髄であり、そのような素地ができつつある。歯応えのある取組になるように、市だけ、特定の会社だけでなく、連携して取り組んでいきたい。

### (B委員)

公共交通について真摯なご意見をいただき、事業者として感謝申し上げます。事業者単独でできる努力は限られており、利便性向上など難しい部分もある。行政、お住まいの皆様とともによりよい形にしていくのが今会議の主旨と受け止めている。地域のまちづくりとの連関も大切。観光でお越しになる方に便利にご利用いただくことで街の賑わい創出にもつなげていくなどの観点で、当社としても取り組んでまいります。

資料P10に、「分かりやすく使いたくなる公共交通の利用環境の改善」ということで、全国公共交通系ICカードについてご意見をいただいている。ご当地の交通系ICカードとしてICaが先駆けて導入されており、おこがましいことは言えないが、弊社グループとして地域公共交通全体をシームレスに利用いただくため、結節する事業者様に、ご利用形態やニーズに合致したサービスを、より安価にICOCAでご導入いただけるよう努力しているところ。本日も3月22日からの「モバイルICOCA」サービス開始についてプレスさせていただいている。既存媒体からのスムーズな置き換えやMaaSとの連関なども勉強しており、弊社としてもしっかり提案、努力していく考え。

### (会長)

近年様々な形のキャッシュレス決済の方法が発達している。タクシーでもクレジットカードが使える、非常に便利である。

### (C委員)

パブリックコメントの意見をまとめたものを見させてもらったが、良い意見をいただけたと思っている。公共交通を持続的に残していくことも、新しくすることも大変な作業である。公共交通を利用したかったが、利用できない方もいると思うため、交通事業者や自治体にはそのような意見を汲み取っていただきたい。

### (事務局)

パブリックコメントの機会以外に、住民の方と直接意見交換させていただくことも重要だと感じている。交通事業者や関係者の皆さんと一緒に地元に入っていくことも重要だと感じており、連携していきたい。

### (D委員)

浅野川線を利用する学生の意見が新聞に載っていたが、移動しなければならない立場として、通学に対する運賃の支援をしてもらいたいという内容であった。それぞれの立場で頑張ったうえでの値上げだと思うが、利用者からみると厳しい現実である。

### (事務局)

学生や様々な世代の方が、運賃が高いから公共交通を利用しなくなるのは良くない。一方、民間企業が公共交通を運行しており、収支を考える必要もある。収支悪化を防ぐため、補助を行うことなどについても議論が必要である。高齢者に対しては移動支援など各市町で取組んでいるが、学生の方や移動が必要な若い世代の支援についても議論していく必要がある。

### (会長)

北陸新幹線開業によりバス利用者が増加し、バスが便利になったと実感していたが、コロナ禍でいつの間にか便数が減り、運行時間帯が短くなり、値上げもされる。利用者としては良くない方向に向かっていると感じている。北陸新幹線開業後には観光客や利用者も増え、運行事業者も少しは経営改善し、利便性が向上するという良い循環が生まれていた。協議会として、それ以上の状況となるよう目指すべきであり、住民の皆様の協力を実現できるような社会にしていく必要がある。

### (事務局)

値上げの流れを逆向きにすることは難しいが、様々な取組により利用促進を図っている。例えば、バスの1日フリー乗車券の取組を行っており、これをデジタル乗車券としても販売している。利用者を見ると、1割程度は県内利用者であり、値下げができない分、1日フリー乗車券などの取組を通して利用促進に努めたい。

### (E委員)

資料P7に記載の通り、コロナ禍で働き方など全て変わってしまい、元に戻らないことが予想されている。北陸新幹線開業後、コロナ禍で公共交通が減便となるということは、運転手として働く場所が削られていくということである。資料P11にあるように、労働時間規制の強化という傾向があり、就務状況も厳しくなっている。働く者にとって良い環境を整え、若い方が就業したくなる環境を目指していきたい。

(会長)

今回は貴重なご意見をいただいた。パブリックコメントにも細やかな意見があった。それらに対して、どのように対応するか事務局と相談したい。地域公共交通計画として来年度からの5か年で事業を進めていくこととなっている。懸案事項として、資料P18の北陸鉄道線の持続可能性確保について、3市1町ではなく4市2町で検討すべきと考えている。北陸鉄道線の沿線ではないが、かほく市、津幡町も関係性は大きく、今後はJR・IRの検討も避けて通れないと思う。現在は直接関係ないかもしれないが、かほく市、津幡町には是非議論に加わっていただきたい。

最終的な地域公共交通計画については、本日頂いた意見を踏まえ、事務局と会長で最終的にとりまとめさせていただきたいがよろしいか。

一同異議なし

今回は石川中央都市圏の大枠を決めたことになるが、主体は住民であるため、1年に数回でも公共交通を利用いただき、公共交通の課題や便利さを実感いただきたい。先日、石川県総合戦略の会議でも述べたが、県にも議論に参加いただき、県主導で進めていただきたいが、中々難しいようである。その他、特にご意見がなければ閉会としたい。

3. 閉会

—閉

会—